

NPO 法人

第62号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578

TEL 055-288-2345 FAX 055-288-2531 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

【登山教室】百花繚乱～参加者の皆さんの感想～

吉野政子さん（南アルプス市）

35年間、北岳の稜線を盆地から眺め続け、若き学生時代を懐かしみながら、再びあの稜線を歩くなんて有り得ないと思っていました。今回、夢のような機会を与えてくださり、本当に感謝しています。一步一步の岩肌の感触に「帰ってきたよ！」と呼びかけながら登りました。二日目、天気予報をひっくり返す奇跡的な晴天の中で見た周囲の山々、北岳山頂の雄々しい姿、感激でいっぱいでした。

学生時代の登山は、ただがむしゃらに頂上を目指していたような気がします。今回のような可憐な草花に足を止めながらの登山も豊かで楽しかったです。過酷な環境の中で季節には必ず花開く姿が愛おしく、自然のすごさに魅了されました。そして、その自然を守る活動を続けている芦安ファンクラブの皆様の存在にも感服しました。35年前には間ノ岳・農鳥岳に向かう途中雪庇があり、大樺沢の雪渓も比べ物にならないくらいの量だった気がします。食害だけでなく、温暖化は確実に植生を変化させているのでしょうか。

実は、ユネスコエコパークについて、これまで市民でありながら特に意味を感じてはいませんでした。屋久島や白神山地などの世界遺産には大きな興味をもっているのに、身近なものというのは案外ないがしろにしてしまうものなのでしょうね。今回の登山教室の経験を周囲の人に伝えていければと思います。

最後に、体力は衰えていくばかりですが、これからも登山教室に出来るだけ参加していきたいです。

最後の最後に、残念ながら下山後今日まで雲に邪魔され北岳稜線を目にすることができません。35年前の私と今年の私が2人、稜線を歩く幻影を早く目にしたいです。

長田正教さん（中央市）

私は毎年花咲く乙女たちの逢瀬を楽しみにしている。その中でも清楚で可憐な乙女に会いに行くため、北岳百花繚乱山行に参加希望した。しかし7/13、14いずれも☔マーク、梅雨が明けないので覚悟の上だ。予想した如く、1日目は小雨から土砂降りとなり、下着まで濡れてしまう。少々バテ気味で、塩沢さんたちの説明も上の空で、肩の小屋を一路目指す。

やっとの思いで小屋に到着したときは、オーナーのおもてなしやストーブの炎に苦痛から解放された感じを覚えてほっとする。清水さんの北岳の植物等の歴史に知識を深め、蒼龍のワインに心地よい舌鼓を覚え、やがて眠りにつくが、相変わらず風雨が窓を打つ。

朝方、ガスがかかるも次第に晴れて、遥かなる雲海を眺めたとき、昨年続き、晴れ男になるのも感無量である。そして、富士山、甲斐駒、北アルプス等眺望出来たとき、登山の醍醐味を味わう。一步一步大地を踏みしめて、苦勞の末頂に立つ。この達成感を思い切り味わう喜び。「なぜ、山に登るのか。」という問いに対して自ずと答えが返ってくるのだ。



2泊3日コースの皆さん

また、もう一つの喜びがある。それは過酷な環境に存在して、わずかな期間を謳歌する、北岳の高山植物たちだ。その中に、北岳にしか咲かず雪解けと共に姿を見せる清楚で可憐な乙女。そう、彼女の名は「キタダケソウ」。今回はたった一輪しかその姿を見せてはくれなかったが、それでも貴重な逢瀬であった。そして彼女に、また来年訪れることを約束し別れを告げた。

このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様、無事登山をリードしてくれた清水さん、塩沢さんをはじめとするスタッフの皆さんに感謝して北岳山行の思い出としたいと思います。



ハイタッチで登頂を祝う

榎本信子さん（国分寺市）

今回参加の楽しみは北岳からの眺め、見頃の高山植物と友人の山ガールが素晴らしい小屋と絶賛している白根御池小屋泊まりでした。

登山初日、山岳館を出る頃は気にならないくらい的小雨でしたがだんだん雨は本降りになってきました。白根御池小屋に着いた時には、リュックも衣服もずぶ濡れになってました。しかし小屋は友人が言っていた様に立派な設備が整っていて、しずくが落ちるほどびしょりに濡れていた衣服やリュックなど乾燥室に入れたら3~4時間ですっかり乾きました。小屋はとても明るく清潔で居心地も良く素晴らしいものでした。洗面所のステンレス流し台はピカピカ光って水滴の跡すらありません。我が家の曇った流し台が恥ずかしいようでした。

さて、一息ついた後、ガイドの石川さんから北岳の動植物、歴史、地形地質などについて座学がありました。おかげで次の日足元の地質や高山植物を見たときとても参考になりました。

二日目も起床時は雨が降っていましたが、でも出かける頃には雨が止みました。二俣に着いたころには青空になってきました。辺りには何種類もの花々が沢山咲

き乱れて、青色のミヤマハナシノブと紅紫色のグンナイフウロが特に目立ちました。右俣コースに入り雪田を過ぎると登りが更にきつくなってきました。小太郎分岐までの急な登りも目の前に次々と現れるイブキトラノオ、カラマツソウ、ハクサンフウロ、タカネバラ、タカネヤハズハハコ、ウサギギクなどの可憐な花々のお陰でなんとか登って行けました。紺碧の空の下、肩の小屋へと続く稜線からの眺めは最高でした。近くは鳳凰山、甲斐駒、仙丈、ハケ岳。ちょっと離れて富士山。右手遥か下のほうには山麓の家まで見えていました。足元にはハクサンイチゲ、ミヤマシオガマ、コケモモ、ホソバツメクサ、キンロバイなど幾種類もの花々のお花畑が広がっていました。

肩の小屋ではクロユリ、ミヤマオダマキの花を見られましたが花は無いもののキタダケソウの葉を見るのを忘れました。残念！チョウノスケソウ、オヤマノエンドウ、イワベンケイ、ミヤマシオガマなどを見ながら山頂到着。風も無く穏やかな360度の眺め。間の岳、農鳥岳と続く山々が見えました。感激です。間もなくガスがかかり始め下山スタート。トラバース道、八本歯のコルを過ぎバットレスを仰ぎ見て二俣に。やっとこの辺りで周りの花を見る余裕が持てました。

三日目。濡れている山道をどんどん下ります。初日雨の降る中こんな急勾配を良く頑張ったと感心しました。この日は海の日三連休を明日に控えた金曜日。北岳を目指す登山者が次々と登って来ました。10時過ぎ広河原山荘に着き、修了書をいただいた後おいしいカレーライスが用意されていました。二泊三日でゆったりと大自然を楽しめた教室でした。

百花繚乱を満喫し、快晴に恵まれた登頂。そして全員無事下山出来たことはガイドをくださった石川さん始めファンクラブの皆様のお陰と感謝しております。

小林圭一さん（所沢市）

初日の風雨は数年前（確か第24回の百花繚乱）を彷彿とさせるものでした。その時の肩の小屋でいただいたホットココア、そして今回と冷えた体に助かりました。リーダはじめスタッフの皆さんに感謝いたします。

次回お会いするのを楽しみに、近場の山を訓練場にして体力を維持したいと考えています。



前日の風雨が嘘のように

苔三味の1日～コケ観察会・北沢峠～

芦安ファンクラブ 大滝 要造

南アルプスの山にあるコケをみんなで観察しよう、というとても楽しい観察会が、芦安山岳館の主催で、9/11に北沢峠から仙水峠に向かう登山道で開催されました。当日はコケに関心のある18名が参加しました。講師は福井大学学術教養センターの大石善隆先生。とにかくコケ博士だけあって、知識はもちろん、コケに対する強い気持ちが参加者全員に伝わって、みんなコケの世界にどっぷり入り込んでしまいました。

今回のコースは、仙水峠方面の山々に行くには、必ず通る道ですが、いつも山をめざして足早に通っていく道端に、こんな宝物があるんだと教えられました。それも遠目には同じに見えるコケが、よく見るとみんな姿が違い個性的で魅力的なのです。先生に頂いた写真ファイルにあった15種類はもちろん、実際にはその倍以上のコケに出会いました。

そして目で見るだけでなくルーペを使うことで、また違う世界が開けました。ただ大きく見えるだけでなく、よりみずみずしく生き生きしたコケの姿が画面全体に広がります。また先生がそれぞれのコケの前に名札を立ててくださったので、それと一緒に写真を撮ることができ、後日とても役に立ちました。

というわけで、なかなか先に進まず、長衛小屋に着くのに、通常10分のところを、1時間半以上かかり、仙水峠どころか、仙水小屋の手前で引き返す事になりました。

それでも、今日はコケの世界で充分満足、みんな先生のコケの話に聞き入り、ルーペ片手に地面に這いつくばるように観察を続けました。みんなが横一列になってコケを食い入るように観察している姿は、なかなか壮観でした。

帰りは同じ道に戻りながら、各自お気に入りのコケ探しに没頭、先生を置いてきぼりにして、コケ観察に熱中する姿があちこちで見られました。ムクムクゴケ、セイタカスギゴケ、イワダレゴケ、ホソバミズゴケ、タマゴケなどなど、どれも個性があって魅力的でした。

倒木にコケができ、そこから新しい木が育ち、森を造っていくという倒木更新、その姿があちこちで見られ、コケは山の環境維持に重要な役割を果たし、豊かな森を支えているという先生の話を実感しました。コケの世界に魅了された一日でした。これからの山行に、コケ観察という新しい楽しみが加わりました。



ウロコミズゴケ



コセイタカスギゴケ



イワダレゴケ



ジャゴケ



参加者の感想 中本宏幸さん(富士河口湖町)

本日はありがとうございました。今まで「コケ」と一括りにしか捉えていませんでしたが、今日の観察会でコケそれぞれが環境に合わせて進化した結果、現在の姿かたちになったことを知り、大変興味深かったです。これをきっかけに地元のコケもじっくり観察してみたいと思います。ありがとうございました。

特集 「白根御池小屋の1年」

第60号に引き続き、白根御池小屋特集です。2回目は、写真で見る白根御池小屋の1年です。今回も、御池小屋管理人の高妻潤一郎さんにお聞きしました。普段目にすることの少ない山小屋の裏側を少しだけご覧ください！



ゴールデンウィーク頃の御池小屋。通常は3～5mの積雪がある。



毎年5月の下旬に芦安地区で「山の神」に安全祈願をする。



山の神横にある御池の神様、大龍権現。元々は御池の畔にあった。



5月の中旬の白根御池。シーズンはじめ、一番大変なのは沢から水を引く作業。水源となる沢はまだ雪の下。毎年同じ場所で設置ができるよう大木を目印に勘だけで穴を掘る。雪の多い年は7m以上掘ることも。



荷上げは、ひとくくり600kgの荷物を20個以上作成。



荷がすべて上がると、片づけ、布団のセットなどを次々としていく。掃除は小屋閉めの時にしてあるのでほとんど必要がない。不思議な事に、人がいなくて空気の移動がないと、ほこりがまったくたまらない。7カ月前が、まるで昨日のような状態に思える。



工事現場で使用する足場でテラスを作る。工業者が置いていった資材を有効活用して作成をはじめたが、毎年少しずつ大きくなり、現在では、すっかり御池小屋の建物の一部となった。



毎年長期で働いてくれるスタッフには講習会を開き、MFAプロバイダー（応急処置）のライセンスを取ってもらっている。

すべての準備を終えて、毎年6月15日にオープンを迎える。



厨房では朝食、夕食、お弁当やランチも作らねばならず、まさに戦場となる。そのため山小屋では、1回戦、2回戦と言う。

最近のテントは1人用が多く、どこの小屋でも話題になっている。「4人グループでテント4張り」はごく普通な事。おもしろい事に、食事もそれぞれで食べているグループも多い。



登山道整備は男性陣の大きな仕事の一つ。盛夏の時期は中々作業ができず、7月上旬と8月下旬～10月に作業する。



電気は発電機でまかなう為、軽油の荷上げが欠かせない。24時間発電機を回す為、200リットルのドラム缶が4～5日でなくなる。

また小屋で発生したゴミはすべてヘリコプターで下ろして処理をしている。生ゴミは機械で乾燥させ、一般ゴミと一緒に処理をしている。



9月の下旬に初霜が訪れる。初霜は富士山の初冠雪とほぼ同時期。

降雪前に雪囲いなどの作業を急ピッチで。例年10月20日ごろからは、いつ雪が降ってもおかしくない気温となる。また今年の10月は暖かいと思っていると、11月に入って一気に気温が下がる。御池の水も凍結し、山頂付近は雪景色へと変わる。長かったシーズンの終了。すべてを終えて下山をする。次に小屋を訪れるのは来年の5月となる。

芦安小学校自然教室～櫛形山～

7月14日、芦安小学校5・6年生の自然体験教室にガイドとして同行してきました。天気に恵まれ、中学生になったら登る北岳や鳳凰三山を見渡すことができました。道中では、お山の小学生らしく、小さな花やコケ、虫などにも興味津々でした。これからも自然とともに歩いて行ってほしいです。 AFC 中込景子



展望台で北岳を眺める



大きなカラマツに圧倒される



満開のクガイソウ

新入会員紹介 入倉利也さん

はじめまして、6月に入会させて頂きました入倉利也と申します。

本格的に登山を始めて5年、南アルプスや北アルプス、山梨の山々を登り、登山ライフを楽しんでいた昨年の5月4日、北アルプスの残雪期、唐松岳で自分の不注意で滑落事故を起こしました。滑落事故を目撃した一般登山者、救助に来てくれたレスキュー隊偶然通りかかった整形外科の先生、多くの人ののおかげで無事に救助され下山することができました。幸いにも足の骨折で済み今では登山に復帰しています。

救助中の担架の中で、レスキュー隊の方に、お礼をしたいと申し出ると、「あなたの地元の山に奉仕、貢献してください」「あなたが救助を求めている人に遭遇したら、率先して救助活動に参加してください」と返事が返ってきました。私の地元は南アルプス。地元の山に奉仕、貢献しようと思った時に芦安ファンクラブのホームページの「今後に向けて」の1文『当クラブは、今日までの活動の成果あるいは失敗例を慎重に検証して、今後の活動に活かしてゆくことにより、地域の活性化と南アルプスの自然保護に寄与してゆきたいと考えております。』に賛同して入会願いを申し出ました。

今後は、芦安ファンクラブの一員として様々な活動に参加し地域の活性化、南アルプスの自然保護に力になれるように頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願ひします。

